

# 啓北中がカブスリーグへの参入を決める！ 平成20年度第2回北海道カブスリーグU-15中体連加盟チーム参入決定戦

平成20年度第2回北海道カブスリーグU-15中体連加盟チーム参入決定戦は10月27日、28日に栗山ふじスポーツ公園で第1節、第2節が行われました。旭川地区から参加している啓北中は、第1戦で札幌真栄中を2対1、第2戦で札幌あいの里東中を7対1で撃破し2連勝。この結果、第3節で真栄中とあいの里東中の結果がどうなっても、勝ち点で追いつけないためカブスリーグへの参入が決まりました。

## 第1戦 10月27日(土) 栗山ふじ 旭川啓北中 2 - 1 ( 1 - 1 ) 札幌真栄中

得点者 山内(5分)、笠原(40分)(啓)

警告 藤村(啓)

啓 北 GK永井 DF酒井、高橋竣、茂木、干場 MF藤村、山内、保田、池田  
FW藤原、笠原 交替/FP西根

開始早々から啓北は勢いをもって攻勢に出る。MF山内を起点にDF酒井、MF池田が両サイドでしかけてリズムをつかむ。その攻撃が5分に早くも実る。中盤でカウンターから山内が左サイドのスペースにフィード。FW藤原が相手DFと競り合いながら最後はボールを奪って、サポートした山内に戻すと、山内は左足で20mのミドルシュートをゴール右隅にたたき込み先制した。しかし、その後は真栄中のスピードを生かしてリズムをつかむ。啓北はFWにボールが収まらなくなり、ラインも上げられず前線と中盤にスペースが空いてしまい、厚みのある攻撃ができない。カウンターや酒井、藤村の右サイドから崩しにかかるが、真栄中を中心とした守りにあい、シュートにはなかなかいられない。しかし、啓北守備陣も高橋竣、茂木のCBがふんばり決定的なチャンスをつくらせず、一進一退の攻防となる。21分啓北は思わぬ失点をする。GKとDFラインの間にボールを落とされると、GKが出足よくボールに向かったもののボールは芝生を滑り相手に奪われる。センタリングされたところを合わせられて同点とされる。しかし、決定的な場面は両チームとも少なく、相手の突破をねらってきた右サイドもDF干場と池田で粘り強くおさえこむ。



後半に入り、徐々に啓北の中盤が機能し始める。保田、山内がボールを拾う場面も多くなり、DFもよくサポートしポジションできるようになる。藤村、酒井の右サイドもボールをよく収め、サイドをえぐり出す。38分には酒井と藤村のパス交換から最後は山内がフィニッシュまでもっていくが、わずかに外れる。40分啓北は左CKを得ると、池田が判断よくシュートコーナーとし、酒井にパス。酒井のクロスに笠原がファーサイドで飛び込んで鮮やかなヘッドで合わせ2対1とする。完全に中盤を支配した啓北はその後、左に位置を変えた笠原や、右の藤村、酒井から何度もサイド攻撃をしかける。保田、山内の配球も、両サイドによく散らせる。50分には藤村のセンタリングから決定的なチャンスを得るが、中で合わせられず。56分には山内がミドルシュートを放つなど、数多くのシュートを放ったが追加点はあげられず。それでも、茂木、高橋竣のCBが相手FWにシュートまでは打たせず、2対1で第1戦を飾った。

## 第2戦 10月28日(日) 栗山ふじ 旭川啓北中 7 - 1 ( 2 - 0 ) 札幌あいの里東中

得点者 藤原(16分、29分、47分)、笠原(31分、55分)、山内(35分)、高橋竣(56分)

啓 北 GK永井 DF酒井、高橋竣、茂木、干場 MF藤村、山内、保田、池田

FW藤原、笠原 交替/FP西根、斉藤、新井

あいの里東との第2戦は序盤から互いに攻め合う試合となった。啓北は1分DF酒井の右スペースへのフィードに、走り込んだFW笠原が切り返してファーストシュートを放つ。

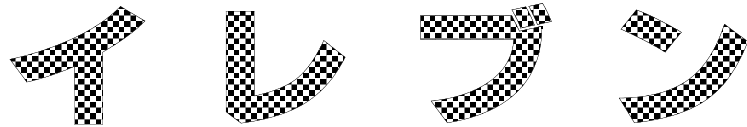
一方のあいの里東3分啓北DFのパスを奪ってシュートに持ち込む。啓北は山内、保田が中盤でボールを支配し、干場と池田のコンビネーションもよく、池田のスピードを生かして何度も相手の左サイドをえぐって攻撃をしかける。5分には左サイド深くえぐった池田の折り返しを笠原がボレーでねらうが惜しくもふかす。8分には保田、山内のパス交換から山内がフィニッシュする。11分にも池田の突破から山内がシュートを放つ。あいの里東は速い攻守の切り替えから、スピードにのった攻撃を見せる。中盤でボールを失うと、一気にゴール前まで攻め込まれ油断できない展開となる。とくに前線の、はクレバーなプレーで、啓北DFのマークをはずすとともに、ギャップを作り出し、何度もがシュートチャンスを得る。また中盤では、が速い切り替えから、空いたスペースに左サイドの、右サイドのを次々と走らせ啓北DFを混乱させる。啓北も12分には左サイド深く進出した山内がドリブルで割って入りシュートを放つが惜しくもポストをたたく。12分啓北は幸運なかたちで先制点を奪う。相手DFのバックパスを奪ったFW藤原がゴールへ突進。落ちて左隅にシュートを決める。さらに18分には山内のパスから藤村がセンタリング、藤原がシュートを放つが惜しくもゴールならず。しかし、あいの里東もすぐさま反撃。23分にはがシュート。続く攻撃ではが左サイドを突破し啓北ゴールに迫るが、DF高橋竣が落ちていたプレーで体を寄せ、シュートチャンスを防く。29分啓北は山内と藤原のパス交換から藤原が抜け出しゴール中央に2点目となるシュートを決める。この1点で勢いに乗った啓北はロスタイムに池田が左サイドを突破し、ポストをたたくシュートをはなつ。



前半終了間際、いい形で追加点を奪った啓北は後半の開始早々、大きな1点をあげる。山内のDゾーンからのスルーパスに抜け出した笠原が右足インサイドで流し込んで3対0とする。この1点であいの里東の出鼻をくじくとともに、啓北はますます勢いに乗る。34分には池田のパスから山内がワンタッチで相手DFのウラに抜け出し4点目をあげる。43分、DFの連携ミスから相手FWに1点を奪われるが、47分DF茂木が攻撃参加から右サイドの笠原にスルーパス。笠原が突破し折り返したボールに藤原が合わせてハットトリックを完成する。攻撃の手をゆるめない啓北は55分左サイドに移った笠原を起点に藤原がゴール前からみ、逆サイドに流れたボールをMF斉藤が折り返す。最後は笠原がGKとの1対1を冷静にけり込み6点目。56分にはオーバーラップしたDF高橋竣が山内とのワンツーリターンから抜け出し、ゴールにけり込み7点目をあげた。あいの里東の攻守の切り替えに序盤苦しんだ啓北だが、いい時間帯に得点をあげることができたため、思わぬ大差の勝利を収めることができた。



カブスリーグ参入を決めた旭川市立啓北中学校



# コンサドーレ旭川ユースU-15が決勝リーグ進出! 平成20年度第1回北海道ブロックカブスリーグU-14

平成20年度第2回北海道第1回ブロックカブスリーグU-14は10月27日に予選リーグが終了。旭川地区から参加しているコンサドーレ旭川は、最終節でベアフット北海道に快勝し、3勝1分の1位で決勝リーグ進出を決めました。

## 第1戦 8月25日(土) SSAP人工芝

### コンサドーレ旭川 1 - 1 (2 - 1) FCノルデ

得点者 河原, 田中, 玉田, 阿羅, 山下, 小手川

序盤パスが繋がらず、相手の出足に負ける場面が続く。そして、開始3分ディフェンスラインの裏を取られGKと1対1となり先制点を奪われる。更に相手のペースが続き押し込まれる場面が増える。しかし24分コンサは、裏に出たロビングボールの処理を相手DFが誤った間に、FW2人が落ちてパス交換後、最後は河原がゴールへ流し込み同点とする。落ちて着きを取り戻したコンサは、3分にはゴール前で粘って田中が押し込み逆転する。

後半は相手の運動量もあち、一方的な展開となる。サイドからの攻撃や相手の裏を取る場面が次から次へと生まれ、玉田, 阿羅, 山下, 小手川が次々とゴールをあげ、終わってみれば7対1で快勝した。

## 第2戦 10月21日(土) 池田町

### コンサドーレ旭川 3 - 0 (3 - 0) プログレッソン十勝

得点者 伊藤, 玉田, 中澤

立ちあがりの動きが良くなかったコンサは、パスが繋がらず、相手に簡単にボールを奪われピンチを招く。しかし、11左CKをMF中澤が入れると、GKの頭上を通過し、ゴールライン際にこぼれたところを、逆サイドから走りこんでいたDF伊藤が頭で押し込み先制。これで気分的に楽になったコンサは、12分右サイドを突破したDF吉本からのセンタリングをゴール前に入ってきたMF玉田が鮮やかに突き刺し2対0とする。さらに、18分には玉田の左サイドからのクロスに、中澤が頭で決めてだめ押しの3点目をあげた。後半は相手に攻められる場面も何度かあったものの無失点に抑え、2勝目をあげた。

## 第3戦 10月22日(日) 池田町

### コンサドーレ旭川 4 - 4 (3 - 1) レアリッザーレ

得点者 中澤, 武井, 小手川

立ちあがりにリズムを作れないコンサは、4分DF陣が集中を欠きGK前でフリーのシュートを許して先制点を奪われる。前からプレスをかけてくる相手に対し慌てたプレーになったが、9分MF中澤がゴール正面2.5mのFKをゴール右上角に鮮やかに決め同点に追いつく。12分には相手DFラインの裏でボールを受けたFW武井がGKとの1対1の場面を冷静に蹴りこみ逆転に成功。さらに16分は左サイドをMF河原がゴールラインまでえぐり速いセンタリング。小手川が何とかこのボールに追いつき追加点をあげ、前半を3対1で終える。

後半は立ちあがりに攻めこまれ、31分、ポストに跳ね返ったボールを蹴り込まれ1点差に詰め寄られる。勢いを取り戻した相手に対し、攻めが単調となる。そして47分には、右サイドから崩されあっけなく同点に追いつかれる。危機感がつきたコンサは全員が運動量上がり、積極的に得点をねらいにいく。これが功を奏し、57分ゴール前の混戦からMF澤田がシュート。GK弾いたところをき、走りこんだ武井が押しこみまたしても勝ち点を奪う。しかし、終了寸前右サイドからクロスを上げられ、風に押し戻されたボールの処理を誤る間に、相手FWに同点弾を決められて、点の取り合いはドローに終わる。

## 第4戦 10月27日(土) 栗山ふじ

### コンサドーレ旭川 5 - 0 (3 - 0) ベアフット北海道

得点者 小手川, 阿羅, 吉本

立ち上がり、ボールを支配するもののパスをつなぐ意識が高いあまり、突破を図るパス

がなく、シュートチャンスまで進まない。しかし、8分MF阿羅が右サイドを突破し速いセンタリングを出すと、相手DFが処理しきれず、FW小手川の前にボールがこぼれ、右で正確にゴールへ蹴り込み先制点を奪う。だがリズムに乗り切れないコンサはDF陣に落ち着きが無く、いい攻撃の形を作れない。17分に左サイドの河原が、思い切りの良いサイドチェンジで逆サイドへロングパスを出すと、全くフリーの阿羅がスピードに乗ったドリブルでDFをかわし、そのままGKの出鼻にクリーンシュート。左ポストの内側に当たってゴールインし、追加点を奪う。21分、システムを変更すると攻撃に厚み生まれ、次第にチャンスが増える。27分、右から左へサイドチェンジされたボールを受けたMF澤田がライナーのセンタリング。小手川が左足インサイドボレーでファインゴール。3対0と突き放す。良い形で終えた前半、守備陣も安定しだしベアフットのシュートを1本に抑える。

後半は数々のシュートチャンスを作るが、最後のフィニッシュに精度を欠き得点が生まれない。それでも54分、左サイドの河原が打ったシュートがポストに当たり、跳ね返りを途中からFWに入った吉本が押し込み4点目を奪うと、59分にも吉本は左サイドからドリブルシュートを決めて5対0とし、Dブロック1位で決勝リーグ進出を決めた。

A	DOHTO Jr	LIV.FC	DENOVA	石狩FC	あいの里	Jubelgol	勝点	得点	失点	得失差
DOHTO Jrユース		0-1	7-0	3-0	2-1	8-0	12	20	2	18
LIV.FC	1-0		2-2	1-1	5-1	1-0	11	10	4	6
FC.DENOVA	0-7	2-2		2-0	3-0	4-0	10	11	9	2
石狩FC	0-3	1-1	0-2		4-1	3-0	7	8	7	1
あいの里東中	1-2	1-5	0-3	1-4		1-1	1	4	15	-11
FC Jubelgol	0-8	0-1	0-4	0-3	1-1		1	1	17	-16
B	ユニオン	ASC	クラブF	LAVORO	フロンティア	SC札幌	勝点	得点	失点	得失差
ユニオンジュニアユース		3-2	1-0	2-0	1-0	3-0	15	10	2	8
あつまスポーツクラブ	2-3		5-0	2-1	4-2	6-3	12	19	9	10
クラブフィールズ	0-1	0-5		1-0	1-0	2-1	9	4	7	-3
SS LAVORO	0-2	1-2	0-1		1-1	2-1	4	4	7	-3
フロンティアトルナーレ	0-1	2-4	0-1	1-1		2-2	2	5	9	-4
SC札幌	0-3	3-6	1-2	1-2	2-2		1	7	15	-8
C	アンフィ	帯広FC	シュベル	サンク	札幌ウエ	サッポロ	勝点	得点	失点	得失差
アンフィニMAKI.FC		5-0	5-0	4-0	5-0	7-0	15	26	0	26
帯広FC	0-5		4-3	0-1	3-1	4-1	9	11	11	0
R.シュベル	0-5	3-4		2-1	2-1	4-0	9	11	11	0
サンクFCくりやま	0-4	1-0	1-2		2-1	1-0	9	5	7	-2
札幌ウエスト	0-5	1-3	1-2	1-2		2-0	3	5	12	-7
サッポロボーイズ	0-7	1-4	0-4	0-1	0-2		0	1	18	-17
D	コンサ旭川	プログレッソ	レアリッ	NORTE	ベアフツ		勝点	得点	失点	得失差
コンサドーレ旭川ユース		3-0	4-4	7-1	5-0		10	19	5	14
プログレッソ十勝FC	0-3		2-3	2-0	7-1		6	11	7	4
レアリッザーレFC	4-4	3-2		2-2	1-1		6	10	8	2
FC.NORTE	1-7	0-2	2-2		4-0		4	7	11	-4
ベアフット北海道	0-5	1-7	1-1	0-4			1	2	17	-15

## 決勝リーグ組合せ・日程

グループA LIV.FC あつまスポーツクラブ アンフィニMAKI.FC

コンサドーレ旭川ユースU-15

グループB DOHTOジュニアユース ユニオンジュニアユース

帯広FC プログレッソ十勝

\*上位4チームが平成20年度第2回北海道カブスリーグへ参入

決勝リーグ第1戦 10月28日(日) 栗山ふじ

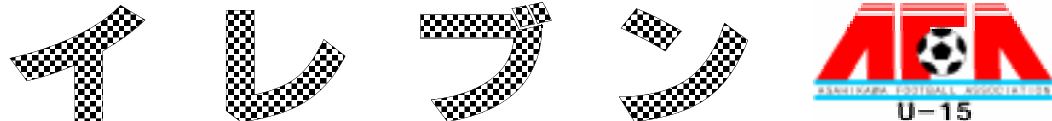
コンサドーレ旭川 7 - 1 (1 - 1) あつまスポーツクラブ (詳細は後日)

決勝リーグ第2戦 11月10日(土) SSAP人工芝

12:20 コンサドーレ旭川vs LIV.FC

決勝リーグ第3戦 11月11日(日) SSAP人工芝

13:30 コンサドーレ旭川vs アンフィニMAKI.FC



## 啓北中が全道準優勝を果たす。 第23回全道中学(U-14)サッカー大会

第23回全道中学(U-14)サッカー大会は11月3日、4日の二日間、札幌サッカーアミューズメントパーク、コンサドーレユース雁来練習場で行われました。会長杯秋季リーグに優勝して参加している啓北中は、準決勝で釧路景雲中と対戦。前半2点を先行される苦しい立ち上がりでしたが、後半笠原と酒井の得点で同点に追いつきました。試合は延長も終えて決着がつかずPK戦に持ち込まれましたがG K永井の活躍で勝利し、決勝に進出しました。決勝では室蘭蘭東中と対戦。18分に先制された後、後半13分に相手オウンゴールでいったん同点に追いつきましたが、終了3分前決勝点をあげ、惜しくも涙を飲みました。しかし、清水・御影中、釧路景雲中といった全道強豪チームを破っての決勝進出で、健闘が光りました。

**決勝 11月4日 S S A P 人工芝**  
**旭川啓北中 1 - 2 (0 - 1) 室蘭蘭東中**  
得点者 0・G (38分) [啓] (18分), (47分) [蘭]  
啓 北G K永井 DF酒井, 茂木, 高橋峻, 干場 MF藤村, 山内, 保田, 池田  
FW藤原, 笠原 交替/F P 斉藤, 西根

準決勝で延長、PK戦まで戦った疲れが心配された決勝だが、序盤は啓北のペースでゲームは進む。山内、保田が中盤を支配、右サイドから藤村、酒井がスペースに飛び出し、左サイドからは干場のサポートから、池田が虎視眈々と突破をねらう。1分には藤原とのワンツーから酒井がオープニングシュートを放つ。2分には藤村が右サイドをドリブルで二人を突破しセンタリングを送る。8分、啓北は酒井のパスから笠原が抜け出しシュート。ゴールが決まったかと思われたが、G Kがさわってボールの勢いが弱まり、DFのゴールカバーにあってクリアされる。啓北のリズムで試合を進めている間に、DF陣が安易にボールロストする場面が多くなり、カウンターからピンチを招く回数が増える。不用意なドリブルやパスにより、試合のリズムを蘭東に奪われる。18分中盤で奪われたボールを左サイドから攻撃され、蘭東FWのドリブル突破から先制点を奪われる。啓北も高橋峻のサイドチェンジから攻撃に出るものの、ボールロストが祟ってか切り替えが遅く、両サイドのスペースを活用できない。

後半もDFラインのコミュニケーション不足からばたばたとDF陣が慌てピンチを招く。しかし、そのピンチをG K永井がファインセーブで何度も救い、追加点を許さない。残り12分となり啓北は酒井、笠原を両サイドに換え、サイド攻撃から活路を見いだそうとする。38分右サイド浅い位置で啓北はFKを得る。このFKを酒井がゴール前に送ると、相手DFがクリアしきれず、オウンゴールを誘いついに同点に追いつく。この1点で勢いにのった啓北はたたみかけるように攻勢にでる。1分後には酒井が右サイドをドリブル突破しセンタリング。藤原がジャストタイミングで頭で合わせるが、相手DFが体でブロック。そのこぼれ球を山内がねらうがわずかにゴール右へ外れる。この時間帯に両サイドからかさにかかって攻める啓北だが、得点をあげられず。逆に47分相手のカウンターにはまり、サイドを破られ2点目をあげられる。残り時間が少なくなり啓北は茂木を中盤にあげ対応。その茂木が体を張ったプレーで中盤でボールを奪取し攻撃に出るが、蘭東の守備を崩せずタイムアップ。惜しくも2対1で破れ、準優勝で大会を終えることになった。



**準決勝 11月4日 コンサ札幌ユース練習場**  
**旭川啓北中 2 - 2 (0 - 2, 2 - 0, 延長0 - 0) <PK4-3>釧路景雲中**  
得点者 笠原(30分), 酒井(35分) [啓] (5分), (6分) [景]  
啓 北G K永井 DF酒井, 茂木, 高橋峻, 干場 MF藤村, 山内, 保田, 池田  
FW藤原, 笠原

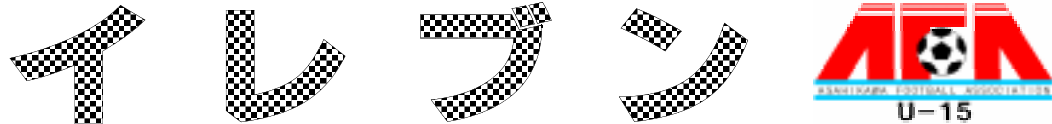
序盤から景雲の攻守の切り替えの速いサッカーに後手後手とまわることの多い啓北は苦戦を強いられる。前線の、がクレーバーな動きで啓北DFのギャップに進出。中盤も、にボールを奪われ、啓北の攻撃陣と守備陣が分断される。苦し紛れに前方にフィードしたボールも長身の、にはじき返され、攻め手が生まれてこない。5分景雲は、中盤からのスルーパスに、がDFのギャップに入り込みスピードに乗ったドリブルからシュートを決め先制する。さらに6分には失点の動揺から落ち着きを取り戻せない啓北DFの隙をつき、右サイドから、がスピードにのったドリブルで破りあっさり2点目を奪う。それ以降も景雲の速いつばしにあい、完全にゲームを支配され防戦一方となる。何とかG K永井の守備により、しのいだ啓北だが攻撃に関してはほとんど決定機をつくれぬ状況。9分に藤村のセンタリングに池田がからんで山内がうったシュートと、22分左サイドでうけた笠原が切り返しておくったセンタリングに藤原がボレーでねらったシュートがあるだけで得点の可能性を感じられない。

後半も景雲にボールをポゼッションされ、ロングフィードからFW笠原、藤原のウラの飛び出しに終始する。それでも28分には酒井がドリブルでの突破や29分には高橋峻のフィードなどから徐々にチャンスの芽が広がり出す。そして30分、DF干場のフィードから藤原が前線でごんぱり、パスを受けた笠原がドリブルで抜け出て左隅に1点を返す。そして35分池田の突破から藤原がファウルを受ける。その約35mのFKを酒井が蹴ると風にもってG Kの頭上を越え同点に追いつく。このゴールで試合の流れは啓北に傾く。のカウンターには苦しめられながらも、茂木、高橋峻が対応。山内、保田のボール奪取率も高まり、再三景雲ゴールを脅かすようになる。46分には酒井のクロスから池田がシュートを放つが、惜しくも枠の左へ外れる。さらに49分には山内が左サイドをドリブル突破、センタリングを送るが藤原にわずかに合わない。試合は延長戦へと突入する。

20分間の延長でも啓北がペースを握る。55分酒井の右CKから笠原がきれいなヘッドで合わせるがボールは惜しくもゴールポストをかすめる。また山内、保田の中盤から笠原がスルーパスを受け抜け出し、ゴールに迫る回数も増える。延長では4本のシュートを放ちながら得点をあげられず、勝負はPK戦へと持ち込まれる。このPK戦では1年生G K永井が景雲のキックを2本ストップする大活躍。最後は主将山内が冷静に決めて、決勝へと駒を進めた。



旭川地区としては久々の全道新人戦決勝進出を果たした旭川市立啓北中学校



# 啓北中が準決勝に進出！ 第23回全道中学(U-14)サッカー大会

第23回全道中学(U-14)サッカー大会は11月3日、4日の二日間、札幌サッカーアミューズメントパーク、コンサドーレユース雁来練習場で行われました。会長杯秋季リーグに優勝して参加している啓北中は、1回戦帯広地区代表の強豪清水・御影中と対戦。清水・御影中のナショナルトレセン選手のスピードに苦しみながらも、笠原の2得点などで3対2で振り切り準々決勝進出を果たしました。準々決勝では、後半攻撃陣が爆発。山内の2得点などで北空知FCを4対0で破り、ベスト4に進みました。

## 1回戦 11月3日 コンサドーレ札幌ユース雁来練習場

旭川啓北中 3 - 2 (2 - 0) 清水・御影中

得点者 笠原(1分, 43分), 藤原(14分)〔啓〕 (32分), (40分)(清)  
啓 北GK永井 DF酒井, 茂木, 高橋峻, 干場 MF藤村, 山内, 保田, 池田  
FW藤原, 笠原

帯広地区を圧倒的な強さで勝ち抜いた清水・御影中はナショナルトレセンの選手も擁し、啓北は苦戦が予想された。しかし、立ち上がり硬さの見える清水・御影のDF陣に啓北は前線からプレッシャーをしかける。1分にはペナルティエリア内でボールを奪ったFW藤原からのパスを受けたFW笠原がゴール右上に蹴りこんで幸先の良い1点を奪う。この1点でリズムをつかんだ啓北だが、清水・御影に個人技でかき回される。3分にはハーフウェー付近でボールをもったがスピードによって、あっという間に啓北DF陣3人を突破してゴールに迫る。このプレーでより一層警戒を強めた啓北だが、中盤から前の選手がボールの出所をよく抑える。また、CB茂木、高橋峻も何とかスピードに乗らせない対応をする。5分啓北は後方からのフィードを藤原がヘッドで流すと、相手のDFラインのウラに飛び出した笠原がゴールに向かってフリードリブル。相手DFがたまたま後ろからひっかけFKを得る。しかし、酒井のFKはGKに阻まれる。何とか追加点をとりたいた啓北は14分、右サイド奥でボールを拾ったMF藤村がセンタリング。ニアサイドに走り込んだ藤原が右足で合わせ貴重な追加点を奪う。完全にボールを支配した啓北は、御影・清水のスピードに苦しみながらも、前線からのボール奪取で、20分山内、21分池田のセンタリングから藤村がチャンスをつかむ。しかし、前半は追加点をあげられず2対0で終了する。



後半開始直後、啓北は絶好の好機を得る。26分山内が藤原とのワンツーから抜け出しGKと1対1になるが、わずかにシュートは左へ外れる。何とか茂木、高橋峻のDFで清水・御影を抑えていた啓北だが、32分カウンターからCKを奪われる。そしてマークがルーズになった隙をつかれ、CKから清水・御影に合わされ1点を返される。この1点ですっかり受け身にまわった啓北は、を警戒する余り、ラインがずるずると下がり清水・御影に攻勢を許す。清水・御影にマークを集中すると、フリーで前線をかき回し、守備陣が混乱させられる。そして40分カウンターから一気にスピードに乗られGKとの1対1を決められ同点とされる。しかし、ここから踏ん張った啓北は43分酒井からのロングパスを受けた笠原が相手DFと飛び出してきたGKをかわし、約25mの距離から無人のゴールにシュートをたたき込み決勝点をあげた。清水・御影の苦しめられながらも、粘り強く戦った啓北が難敵を撃破した。

## 準々決勝 11月3日 コンサドーレ札幌ユース雁来練習場

旭川啓北中 4 - 0 (0 - 0) 北空知FC

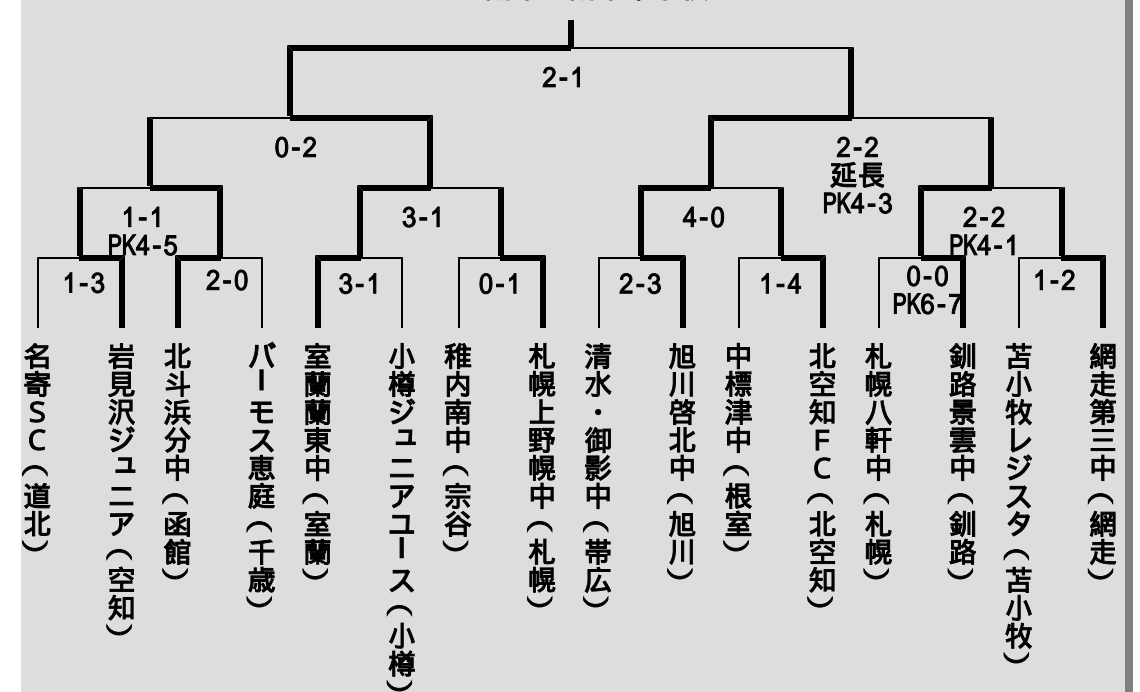
得点者 山内(30分, 38分), 池田(35分), 西根(42分)〔啓〕  
啓 北GK永井 DF酒井, 茂木, 高橋峻, 干場 MF藤村, 山内, 保田, 池田  
FW藤原, 笠原 交替/GK重綱 FP西根, 斉藤, 高橋拓, 新井

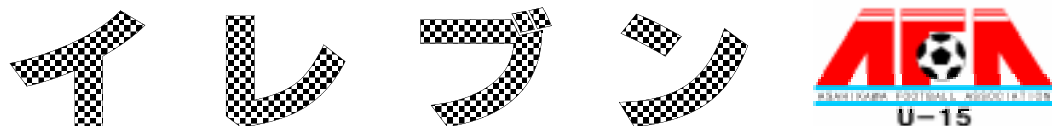
準々決勝は中標津中を破った北空知FCとの対戦となった。前半動きの鈍い啓北は、ボールを支配しながらも突破のパスが生まれない。保田が中盤の底でボールを拾うものの、左サイドの池田、右サイドの藤村の攻撃も単発に終わり、厚みが生まれない。2トップにもボールが収まらず、シュート数はわずか2。逆にカウンターから北空知に、サイドを崩され危ない場面が目立つ。何とか茂木、高橋峻のCBで持ちこたえるものの、ラインも上がりきれずにリズムをつかめない。サイドに当てるパスも供給されず、縦への単純なフィードが多くなり、0対0で前半を折り返す。



後半、啓北は山内、保田の中盤が機能し始める。左サイドの池田に効果的なボールが出始め、左DF干場のサポートもよく、サイドを数的優位で崩し出す。右サイドの藤村、酒井も高い位置でプレーできるようになり、FW藤原、笠原にもボールが収まり攻撃に厚みを増す。30分啓北はハーフウェー付近での茂木のFKから山内が抜け出し、GKの頭上を越えるループシュートで待望の先制点をあげる。この1点で落ち着いた啓北は、かさにかかって攻め出す。35分には酒井が右サイドから中へドリブルし、左足でセンタリング。逆サイドのウラから飛び出したMF池田がワントラップし落ちていてゴールに蹴りこみ2点目をあげる。38分には笠原が右サイドをドリブルで崩しゴールラインまでドリブル。折り返したボールを山内がシュートし、試合を決定づける3点目を奪う。攻撃の手を緩めない啓北は42分、池田の左からのアーリークロスに飛び出したFW西根がGKをかわして駄目押し4点目をあげる。後半の猛攻によって4点を奪った啓北が準決勝へと進出を決めた。

### 室蘭市立蘭東中学校





## コンサドーレ旭川ユースU-15がカブスリーグ参入! 平成19年度第1回北海道ブロックカブスリーグU-14

平成19年度第1回北海道ブロックカブスリーグU-14は11月10日、11日の二日間、札幌サッカーアミューズメントパークで決勝リーグが行われました。11月10日のLIV.FC.戦に吉本らの得点で4対0で快勝し、コンサドーレ旭川ユースは早々とカブスリーグに参入を決めました。翌11日には2勝同士のアンフィニMAKIと対戦。石井、山下、阿羅の得点により、3対1の勝利を収め、全勝でブロック決勝リーグを終えました。

### 北海道U-14ブロックカブスリーグ

決勝リーグ第2戦 会場：札幌サッカーアミューズメントパーク

コンサドーレ旭川 4 - 0 (3 - 0) LIV FC

得点者：吉本、河原、武井、阿羅

11月11日(日)会場：札幌サッカーアミューズメントパーク 13:30キックオフ

コンサドーレ旭川 3 - 1 (1 - 0) アンフィニ MAKI FC

得点者：石井、山下、阿羅

A	コンサドーレ旭川	アンフィニ	LIV.FC	あつま	勝点	得点	失点	得失差
コンサドーレ旭川	-	3-1	4-0	7-2	9	14	3	11
アンフィニMAKI.FC	1-3	-	4-0	6-1	6	11	4	7
LIV.FC	0-4	0-4	-	3-2	3	3	10	-7
あつまスポーツクラブ	2-7	1-6	2-3	-	0	5	16	-11
B	DOHTO Jr	ユニオン	プログレツ	帯広FC	勝点	得点	失点	得失差
DOHTO Jrユース	-	2-0	3-0	2-1	9	7	1	6
ユニオンジュニアユース	0-2	-	1-1	2-1	4	3	4	-1
プログレツ十勝FC	0-3	1-1	-	3-2	4	4	6	-2
帯広FC	1-2	1-2	2-3	-	0	4	7	-3

コンサドーレ旭川ユースU-15, アンフィニMAKI.FC, DOHTOジュニアユース, ユニオンジュニアユースの4チームが平成20年度カブスリーグ(U-15)に昇格。

## 啓北中が全勝で全日程を終える。

平成20年度第2回北海道カブスリーグU-15中体連加盟チーム参入決定戦

第3戦 11月10日 SSAP人工芝

旭川啓北中 2 - 0 (1 - 0) 札幌札幌北中

得点者 藤原(20分), 茂木(38分)(啓)

啓 北 GK永井 DF斉藤, 酒井, 高橋峻, 干場 MF保田, 山内, 茂木, 笠原  
FW藤原, 西根 交替/GK重綱 FP藤村, 池田, 高橋拓, 新井, 若田

カブス参入をすでに決めているため、ポジション、先発選手を若干入れ替えて臨んだ啓北だが、序盤からMF山内を中心に中盤を支配する。高橋峻、酒井のCBもボールを両サイドに散らし、高いボール支配率をもとにゲームを組み立てる。特に左サイドのDF干場と笠原、FW西根のコンビネーションがよく、干場のパスから笠原が突破、あるいは西根にくさびのボールを入れ、チャンスをねらう。しかし、ボールはポゼッションするものの、なかなかシュートまで至らなかった啓北だが、10分干場のパスを受けた笠原がドリブル突破からセンタリング、最後は山内がシュートを放つ。このシュートで突破への意識も芽生えた啓北は12分干場のスルーパスから笠原が再び抜け出し、西根がシュートを放つ。14分には高橋峻のFKからMF茂木がヘッドで狙う。さらに15分には茂木が山内とのパス交換からスルーパス。受けた保田が突破にかかるが、惜しくも相手DFのファウルに止められる。16分には保田のクロスから笠原がシュートを放つ。序盤こそ左一辺倒だった攻撃も、右サイドを活用できるようになったことで、徐々にフィニッシュやラストパスまでもっていき、リズムをつかみだす。20分啓北は、酒井からの左のオープンスペースへのロングフィードを受けた笠原がゴールライン深くまでドリブルしセンタリング。FW藤原がヘッドで合わせてついに先制点をあげる。さらにロスタイムには山内、保田のコンビネーションから藤原がシュートを放つがポストに阻まれる。



後半も啓北はサイド攻撃を軸に何度も札幌苗北ゴールに迫る。36分には笠原のスルーパスから藤原が抜け出し、西根があわやというシュートを放つ。札幌苗北もスピードのあるFWを中心に啓北ゴールに迫るが、高橋峻の読みのよいディフェンスによりシュートを打たせない。38分啓北は笠原が左サイドのスペースに走り込んだ西根にパス。西根が折り返すと中央で藤原がつぶれ役となり、ウラから走り込んだ茂木がゴールに流し込んで2点目をあげる。その後も啓北は途中出場の高橋拓らがチャンスをつかむが、追加点はあげられず。結局札幌苗北をシュート0に抑え込み、2対0でカブス中体連参入戦を3勝0敗の1位で終えた。

A	啓北	あいの	真栄	札幌苗北	勝点	得点	失点	得失差
旭川啓北中	-	7-1	2-1	2-0	9	11	2	9
札幌あいの里東中	1-7	-	2-1	4-0	6	7	8	-1
札幌真栄中	1-2	1-2	-	2-0	3	4	4	0
札幌札幌北中	0-2	0-4	0-2	-	0	0	8	-8

旭川啓北中、札幌あいの里東中が平成20年度カブスリーグ(U-15)に参入。

平成20年度第2回北海道カブスリーグU-15参加チーム

コンサドーレ札幌ユースU-15

札幌ジュニアFC

SSSジュニアユース

スプレッドイーグルFC函館

コンサドーレ旭川ユースU-15

DOHTOジュニアユース

アンフィニMAKI.FC

ユニオンジュニアユース

旭川市立啓北中学校

札幌市立あいの里東中学校